

にお荘で想定される看取りとは？

～施設で最期を迎える場合～

加齢と共に食事摂取が難しくなる。(自分の意思で食べられなくなる)
(食事を目の前にしても口が開かなくなる)



自分の意思で食べられない為、身体は栄養を必要とされていないのでは？
無理に食事を食べる事で誤嚥性肺炎等を発症するリスクが高まるのでは？



身体が食事を必要としていない為、点滴をしても身体には吸収しないのでは？
身体は最期を迎える準備を行っている。
点滴等行う事は本人にとって苦しみ。



点滴等医療的な事は実施せず、本人の生命力に任せ、見守る。
ご本人がどのような気持ちか？何を食べたいのか？何をしたいのか？を考え、
お手伝いをさせていただきます。
家族と施設が共に看取りを行えたら幸いです。出来る限り本人の希望に添った
形を考えています。

※入所時点で皆様高齢な為、その時点から看取りは始まっていると考えていま
す。

その為、ご利用者の希望は出来るだけ応えていきたいと考えています。

(例) 自宅へ帰りたいたい⇒帰る(数時間、数分程度)

自宅の周りをドライブする

海を見たい⇒ドライブへ行く

うどんを食べたい⇒昔からいきつけのうどん屋へ行く

家族と一緒に過ごしたい⇒にお荘で家族が泊まる、自宅へ外泊する

買い物をしたい⇒昔からいきつけの店へ買い物に行く

寿司を食べたい⇒食べに行く